

ひまわり学級実践事例 「ひまわりクッキング ～ピザで交流をしよう～」 からの抜粋

単元名 ひまわりクッキング ～ピザで交流をしよう～

単元について

・自ら考え、学びを深め合う授業をめざして

ひまわり学級と通常の学級との交流はひまわり学級児童理解の中心的な活動である。栽培したリリコを使ってトマトソースを作り、5年生とピザ作りで交流する。調理の前に絵や写真でリリコの栽培の様子やトマトソースの作り方を発表する。そして、ピザの生地の作り方や焼き方など説明し一緒に調理を楽しむ。今年度で3回目となる取り組みであるが、限られた時間の中で調理と交流という2つの目的を達成するために説明のことは簡単にできるレシピ、活動の流れなどを工夫した。日頃少人数で学習している児童が、交流の時は多人数の前でも自信を持って発表し、活動できるようになってきた。何をどんなことばで話すのか、段取り良く調理をするためにはどうすればよいかなどを今までの経験も生かしながら考え、準備・練習することで当日への期待を高めてきた。ひまわり学級の児童にとって調理は栽培活動の一環として行っている活動であり、見通しを持って活動するなど日常生活につながる力を培い、自信につなげ、達成感を持たせる場である。その調理を交流として行うことで、「楽しんでもらえた」「喜んでもらえた」「がんばりを認めてもらえた」という思いを持つことができれば自信と達成感をさらに高めることできる場となる。

単元の目標

- リリコの栽培の世話をする。
- 調理に意欲的に取り組む。
- ピザの作り方を紹介し、5年生と交流する。

学習指導計画・評価計画（全13時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 知識・理解・技能
 ・児童の予想及び期待する反応

	目標	学習の流れ	評価規準・支援（ ）
リリコを育てよう。	土の乾き具合や雑草が生えてきたことが分かり、水やりや草引きをする。（常時活動）	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リリコの世話をしよう。</div> 水やり、草引きをする。 ・水やりはたっぷりするんだよ。 ・雑草が生えてきたら早めにとろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リリコを収穫しよう。</div> 収穫する。 ・真っ赤になった実をとるよ。 ・はさみがなくても簡単にとれるよ。	水やりを十分にすることができる。 草を根っこから引くことができる。 児童が草引きをしやすいようにスコップで掘っておく。 収穫を楽しむ。 赤く熟した実をとる。 実を引っぱるとへたから離れてとれることがわかる。 手本を示す。

トマトソースをつくる。	<p>収穫したりりこの種・皮を取り除く。</p> <p>トマトソースを作る。</p>	<p>トマトソースをつくろう。</p> <p>種をとり、冷凍保存する。 解凍し、皮をむく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一度冷凍すると簡単に皮がむけるよ。 <p>実を煮詰める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 焦がさないように、混ぜながら煮詰めよう。 <p>ミキサーにかける。 塩で味を付け、水溶きコーンスターチでとろみを付ける。</p>	<p>種は小さいスプーンを使ってとる。皮は手で丁寧にむく。</p> <p>手本を示す。種や皮が残らないよう声をかけ、指導者が仕上げをする。</p> <p>煮詰める時、やけどをしないように気をつける。</p> <p>煮詰める時、火加減に気をつける。</p>
交流の計画を作る。	<p>ピザの交流について知る。</p>	<p>ピザの交流について知ろう。</p> <p>説明を聞いて交流の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ピザは去年作ったよ。初めての人に教えてあげよう。 	<p>材料や作り方がわかり調理に意欲をもつ。</p> <p>昨年度のピザ交流を思い出して言うことができる。</p> <p>手順表を作りわかりやすく説明する。</p>

指導の実際

【常時活動】リリコを栽培し、トマトソースを作る

リリコの栽培は一昨年度からしている。リリコは通常のトマトの苗と違ってつるにならず、太い茎にたくさんの実をつける。草引きの手間を減らすことと、実に土がついて病気になることを防ぐために黒マルチを敷いて栽培した。水をやりすぎないように気を付けた。児童は、トマトソースを作ってピザを作るのを楽しみに手入れをした。

実が熟したのから収穫した。へたが簡単にはずれるのではさみを使わずに収穫できる。一輪車いっぱいのリリコが収穫できた。半分に切ってスプーンで種をとり、冷凍した。冷凍することで使う時まで保存できるだけでなく、解凍すると簡単に皮がむける。煮詰めてミキサーにかけトマトソースを作った。リリコはジュース用のトマトなのでとろみがつかないため、ソースに仕上げる時にコーンスターチでとろみを付け、少量の塩で味を付けた。トマトの味そのもののソースは市販のトマトソースにはない味わいで、児童も「おいしい。」と言って喜んだ。

【第1時】ピザ作りと交流について知る

昨年度交流の時間に使ったリリコの成長の様子やトマトの作り方の写真を貼ったパネルを見せ、5年生とのピザ作り交流を思い出させた。自分の説明を完全に覚えている児童もあり、作り方もよく覚えていた。昨年度の5年生から寄せられた「ピザがおいしく簡単にできたので家で作りたい。」「市販のトマトソースは嫌いで食べないけれど、ひまわり学級が作ったトマトソースは食べる事ができた。」などの感想を紹介し、今年度の交流の期待を高めることができた。初めて交流する転入生にもピザ作りのイメージができた。

第1学年実践事例 「おしごとだいさくせん～おまかせ！にこにこたい～」からの抜粋

単元名 おしごとだいさくせん～おまかせ！にこにこたい～

単元について

・自ら考え学びを深め合う授業をめざして

本単元において、子どもの気付きが高まる過程を、次のように考えている。

第一段階

体験する中で、事実をとらえたり感じたりし、自分なりの見方や考え方ができるようになる段階

(例：家庭で仕事に取り組む中で、「洗濯物は端を揃えてたたむ。」「食器は水につけておくときれいに洗える。」など家の人に教えてもらい様々な自分の気付きが持てる。)

第二段階

個々の気付きが学級全体で共有され、次の学習の基になり、新たな気付きが生まれる段階

(例：学校で報告会や発表会を開き、交流し合うことで、「自分の家のやり方と違う。なるほど、こんなやり方もあるんだ。」とか「自分もできそう、やってみよう。」とか自分の気付きと比較し、広げていく。)

さらに、第一段階と第二段階を繰り返し体験する中で、よりよいものを自分が選び、次の活動へつなごうとするとともに学びが生まれてくるのではないかと考える。

また、この学習を進めるに当たっては、友達の見取りがそれぞれ見えるように、一覧表を教室に掲示し、仕事を紹介し合う場や発表会を設けると同時に、教師が気付きを引き出す発問や自信を持たせるような声かけをすることで、子どもの気付きの質を高めていきたい。

単元の目標

家の仕事に関心を持ち、自分ができる仕事を見つけてやってみたり、続けていこうとしたりする。

家庭生活を支えている家族のことや自分にできることについて考えることができる。

家族の役割や大切さに気付くとともに 家の仕事ができるようになった自分の成長や友達のよさにも気付く。

学習指導計画・評価計画(全13時間、国語1時間)

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・表現
 < >内・・・評価方法 気付き ・児童の予想

	目標	学習の流れ(学習活動・児童の反応)	評価規準・支援()
思い・願い	家庭の中で誰がどんな仕事をしているかに気付く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夏休みにしたお手伝いを発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂そうじをしたよ。 ・洗濯物をたたんだよ。 ・いろいろな仕事があるんだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家の中の仕事を見つけよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんがアイロンをかけていたよ。 ・お父さんが晩ご飯を作っていたよ。 ・家の中にはいっぱい仕事があるんだね。 	夏休みのことを振り返り、進んで発表しようとしている。 <発表・会話> 夏休みのお手伝いカードを基に発表する。家の仕事に関心を持ち進んで調べ、友達に紹介しようとする。 <ワークシート・会話>

つかむ	家の中でやってみたい仕事を見つけ、家族と一緒に進んでお手伝いすることができる。	<div data-bbox="438 161 1050 206" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家の中のいろいろな仕事にチャレンジしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの仕事が多いから、たくさんしてあげたいな。 ・お風呂洗いはやったことがないからやりたいな。 ・いろいろな仕事があるね。全部やってみたいな。 <p>(家庭で実施)</p> <div data-bbox="438 470 970 515" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「おすすめのしごと」報告会をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お米とぎをさせてもらったけど難しいな。 ・アイロンがけは楽しかったけれど、しわがいっぱいできたよ。 ・部屋がピカピカになったので、お母さんが喜んでくれたよ。 ・家の中の仕事って大変だね。でも、お父さんやお母さんはいつもしてくれているよ。 ・お母さんが続けてやってほしいと言っていたよ。 ・私にも1人でできることがあるかな。 	<p>家の中でやってみたい仕事を見つけ進んでお手伝いをする。</p> <p><発表・カード> 家の中でどんな仕事をしたいか発表させたり、チャレンジカードを書いたりして意欲を持たせる。 自分が取り組んでいるお手伝いについて振り返ることができる。</p> <p><会話・発表> 家族がやっている家庭の仕事の大切さに気付く。</p> <p><発表・カード> 家の人からの感想を読み、続けることや1人でもできる仕事へ意識を向けさせる。</p>
-----	---	---	---

指導の実際

【第1・2時】思いや願いを持つ

家の中の仕事を見つけよう

夏休みにお手伝いをした体験を振り返るところから学習に入った。「お風呂掃除は楽しかったよ。」「お米のとぎ方を教えてもらったよ。」などたくさんの発表を聞く中で、家の中ではいろいろな仕事があることを知り、「やってみたいな。」と興味、関心を持つことができた。そこで、家の中では、誰が、どんな仕事をしているのか調べることにした。見つけたことをワークシートに記入し、お母さんの仕事が多いことやお父さんやお姉さんたちもしていることに気付き、自分も家の中のいろいろな仕事にチャレンジしてみたいと意欲を持つことができた。

【第3・4・5・6・7時】課題をつかむ・活動する・振り返る

家のいろいろな仕事にチャレンジしよう

お家でいろいろな仕事を体験するために、自分がやってみたい仕事を10個(家の仕事調べのワークシート)にチャレンジさせた。(通信で保護者の協力を得る。) チャレンジした後「おすすめのしごと」の報告会を開き、仕事をした時のことを思い出させて自分がみんなに教えてあげたいことを発表させた。また、保護者からの感想を聞くことで「もっとやりたい。家族に喜んでもらえるためにこれからも続けたい。」などの意欲につながり、「おまかせにここにこたい」になって家族をここにこにさせよう」という新たな課題を持つことができた。

「おまかせ！ にこにこたい」にチャレンジしよう

やってもらったら助かることやできるようになったら嬉しいことをお家の人にインタビューし、「自分におまかせ」の仕事を決めさせた。家での活動が主なので、一人一人のがんばりが見えるように「にこにこチャレンジ一覧表」にシールを貼ったりすることで意欲の継続を図った。家庭で自分が決めた仕事を5日間実施した後、体験をもとに楽しかったことや難しかったことやこつなどを発表した。中には道具を持ってきて説明した児童もいた。紹介し合うことで自分や友達のがんばりに気付くことができた。さらに、「自分のことは自分です」という意識を持たせるために、みんなでやってみたい仕事はないかと問いかけ、上履き洗いにチャレンジすることにした。上手に洗うこつについて話し合ったり教え合ったりして、楽しみながら意欲的に活動できた。

第2学年実践事例 「もっとまちの人となかよくなるう」 からの抜粋

単元名 もっとまちの人となかよくなるう

単元について

・自ら考え、学びを深め合う授業をめざして

自分の考えを書く活動と話し合う活動に重点をおいた単元計画を考えた。書く・話す・聞く活動を組み合わせることにより学びが深まると考えたからである。

まず、自ら考えるためには、文章を書くことから始まる。また書くことによって考えを深めることもできる。そのため見学先ではもちろん見学前や見学後にも書く活動を必ず取り入れた。本単元では、見学後の学習にも資料として生かすためワークシートを活用することにした。

学級全体で話し合う前には必ずペア対話をさせるようにした。自分の考えを書いた後、ペア対話することにより、自信を持たせ発表することへの抵抗感を失くすためである。また、話し合い活動を活性化させるためにリレーションシートをもとに話し合い活動の課題を設定した。さらに、話し合い活動では、教師の発言をできるだけ少なくし、相互指名で話し合いを進めていきたい。

単元の目標

自分が住んでいる地域の施設を見たり、話を聞いたりすることを通して、地域の人々とのかかわりを広げることができる。

見学に関する様々な活動において、自分の課題に向かって友達とかかわりながら意欲を持って取り組むことができる。

見学して気付いたことやわかったことなどを自分たちに合った表現方法で、友達等、身近な人に知らせることができる。

見学に関する様々な活動を通して、友達や地域の人など、身近な人とかかわることの喜びを感じながら、それらの人々のよさに気付き、また、自分の成長にも気付くことができる。

自分が住んでいる地域の施設の様子、そこで働く人々の様子、また自分の生活とのかかわりに気付くことができる。

学習指導計画・評価計画（全24時間・国語1時間）

内の数字・・・時間数

学習活動

関心・意欲・態度

思考・表現

< >内・・・評価方法

気付き

・児童の予想

	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価規準・支援（ ）
思い・願い	夏休みに町でかかわった人や体験したこと、行った場所を教え合い、町の人や場所とのかかわりに関心を持つことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夏の町でしたことを紹介し合おう。</div> 夏休みにしたことを発表する。 ・スタンプラリーでいろいろな所に行ってお土産をもらったよ。 ・公園で遊んだよ。	友達との交流を通して、町にはまだすてきな場所や魅力的な人がいることに気付く。 <つぶやき・ワークシート>

つかむ・活動する	町にある公共物や公共施設に関心を持ち、実際に利用するなどして、多くの人が使うものや施設であることに気付く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下知図書館へ行こう。</div> 準備をする。 下知図書館へ行く。 まとめをする。 ・誰でも本が借りられるよ。 ・大きな活字の本があったよ。 ・通路は、車いすが通れるくらい広がっていたよ。	身の回りの公共物や公共施設に関心を持ち、それらを大切にしたり、正しく使用したりしようとしている。〈行動・会話〉 町にはみんなが使うものやみんなのために役立っているものがあることに気付く。 〈つぶやき・ワークシート〉
	新たな場所に出かけ、町の人や場所とのかかわりを広げることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">共同作業所へ行こう。</div> 準備をする。 共同作業所へ行く。 まとめをする。 ・スロープがあったよ。 ・牛乳パックや箱をたたんでいたよ。	これまで気付かなかった町のすてきな所に気付く。 〈つぶやき・ワークシート〉

指導の実際

【第1・2・3時】思い・願いを紹介する

学習の導入として、夏休みに町でかかわった人や体験したこと、行った場所を教え合い、町の人や場所とのかかわりに関心を持つことができた。

「夏の町で・・・」という題でカードに書き出し、分類し紹介し合った。「公園」「お店」「下知図書館」「神社のおまつり」など多岐にわたっていることがわかり、子どもたちの活動範囲の広がりを感じた。また、子ども同士がこれまでに知り得た情報を紹介し合うだけでも自分たちの町についての知識を深めることができていた。

【第4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16時】つかむ・活動する

町に行く計画を立てよう。

見学の事前学習として、ワークシートへ記入することを通して、その施設の概略を学ぶと共に見学意欲を高めることができた。また、見学の際には、見聞きしたことをワークシートに書き込み、見学後には、そのワークシートを資料として課題について考え合う学習を行った。

下知図書館

身近にある図書館なので、子どもたちもよく利用しており、具体的な気付きが多く出された。また、学校の図書室と比べることにより興味・関心を持つことができた。知っていることを発表し合う中で、「？」の項目も出され、見学への意欲を高めることができた。そして、見学に出かける際には、「人にやさしい物」をテーマに点字ブロックや音の出る信号などにも目を向けさせるようにした。

共同作業所

9月第1土曜日にある「すずめまつり」のちらしが学校で配られた。どのクラスでも何人かの子どもが参加し、「すずめまつり」の様子を発表してもらうことを通して、さらに関心を高めることができた。また、前回見学に出かけた図書館と比べることにより、「障害のある人へのやさしさ」を見つける視点が育ってきた。

<平成23年度の実践より>

第3学年実践事例 「ものをつくる人たち～工場の仕事～」からの抜粋

単元名 ものをつくる人たち～工場の仕事～

単元について

・自ら学びを深め合う授業をめざして

3学年においては、めざす子ども像を「課題に向けてすすんで調べようとする子」「地域の見学や調査活動から、発見や疑問を持つ子」「見つけたことや考えたことを記録することができる子」「友達と意見交換することによって、自分の考えを持つ子」と設定し、具体的な支援の方法を単元ごとに考え取り組んできた。

本単元では、見学前にたくさんの質問事項を準備し予想を立て、見学後、予想と実際の違いから学習問題を立てて追究していくということに取り組みたい。また2学期以降、一人調べ学習にも取り組んできているが、ちくわやかまぼこについて調べてきた事実を資料として授業にも活かすことで、児童間での学びの深まりにつなげていきたい。そして、自分の心が動かされたことから学習問題を作り、調べ追究することができる姿勢を育てたいものである。

単元の目標

かまぼこ工場の見学を通して、ちくわやかまぼこ作りに取り組む人たちの工夫や努力、原料や製品を通じた他地域とのつながり、自分たちの暮らしとの結びつきについて捉えることができる。

かまぼこ作りについて関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分たちの生活とのかかわりを考える。工場で行われている生産活動の様子から学習問題を見い出して追究し、生産活動の特色やそれらの仕事に携わっている人々の工夫について思考、判断したことを言語等で適切に表現する。

工場での生産活動の様子を的確に見学、調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりすることができる。

工場で行われている生産活動には、原料や製品を通じた他地域や外国とのつながり、働く人の工夫や努力があることを理解する。

指導計画・評価計画（全15時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価方法 観察・資料活用 知識・理解 ・児童の予想

	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価規準・支援()
課題をつかむ 予想する	身の回りの品物の大半は、工場で作られたものであるということに気付かせ、高知市の工場に関心を持たせる。	お店で売られている品物は、どこで作られているのだろう。 日頃、身の回りで使っている物で、工場で作られているものはないか、話し合う。 ・かまぼこもお菓子もティッシュペーパーもみんな工場だよ。 高知市に工場はないか、自分たちの経験や高知市の地図から話し合う。 ・かまぼこやお菓子の工場があるよ。	工場で作られるものに関心を持つことができる。 <発表・ノート>

	高知市の工場で作っているものに関心を持たせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高知市にある工場では、何を作っているのだろう。</div> <p>かまぼこの実物や高知市の地図などから、高知市にある「かまぼこ工場」を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚からできているのかな。 ・おばあちゃんがかまぼこ工場で働いているよ。 ・給食のちくわはこの工場で作ったの？ 	<p>「かまぼこ工場」で作られるものに関心を持つことができる。</p> <p><発表・ノート> 家庭での聞き取りをさせておく。</p>
調べる・追究する	調べたいことをはっきりさせるため、見学の計画を立て、見学する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見学の計画を立て、見学をしよう。</div> <p>見学に行き、何を見て確かめ、何を聞いてくるか、ノートに書き出しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやってたくさんのちくわを作るのか。 ・働く人は何を考えながら働いているか。 ・前に停まっている車はどこへ行くのかなど。 <p>見学のルールを守って見学をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">工場で働く人は、どのようにしてちくわや天ぷらを作っているのだろう。</div>	<p>調べることを書き出し、見学の準備ができる。</p> <p><見学カード></p> <p>工場の話や話を聞いたりメモしたり、観察したりして見学をすることができる。</p> <p><態度></p>

指導の実際

【第1・2時】課題をつかみ予想する

前単元で学習した店の品物を想起させ、田や畑で作られるもの、工場で作られるものなどを確かめていった。すると日頃身の回りで使っているものの他に食べ物でも工場で作られることが多いということに気付き、児童は工場というものに関心を持つようになった。そして、校区地図を見たり自分の通学路を思い出したりしながら、工場はどこにあるのか、何をどのように作っているのかなど、予想を出し合いながら興味関心を深めていった。

またかまぼこに着目させた後、家庭での聞き取りを基に、かまぼこの原料について確認したりかまぼこ工場が浦戸湾周辺にいくつかあることなどを確認したりしていった。ここでの学習が見学の時に聞いた「土佐かまぼこ工場は、土佐湾で獲れた魚を使って新鮮なうちにすり身を作り、それを原料として安心・安全のかまぼこを作っている。」という話とつながることとなった。

【第3・4・5時】共通体験を通して調べる

前単元でも見学をしているので、その視点を生かしながら、何を見て確かめ、何を聞いてくるかということと話し合った。そして、自分が調べたいことや予想を書かせるようにした。

見学の際は、気付きを後の学習問題につなげていくために、見たことや気付いたことをメモするように指導した。どこの見学でも同じではあるが、このかまぼこ工場では高温での製造工程があり、200度の天ぷら油や180度のちくわ焼き機の側を通るので、特に安全面での配慮が必要であった。また、床が油で若干滑りやすい感じもした。これらの熱いとか滑るとかという感覚は、後の施設設備の学習で活かされていくのだが、見学の際は気を付けなければならない点であった。また工場内の見学後に、質問をさせていただいたのだが、児童は前時で書き留めておいた「自分の調べたいこと」をよく質問することができていた。さらに、機械の値段や働く人の工夫や願いにまで質問が広がり、前単元での視点が活かされていることを感じた。

第4学年実践例 「くらしを高める願い」からの抜粋

単元名 くらしを高める願い

単元について

・自ら考え、学びを深め合う授業をめざして

本校の研究テーマ「自ら学ぶ子の育成」に向けては、問題解決的な学習の流れを大切にしてきた。例えば、春野が高知市の米どころであることを知り、「細かく流れる用水路に関係があるのではないか。」と予想した上で見学に臨ませる。見学後、印象に残ったことや気になることを話し合い、その中から新たにわかったことや、新しく疑問に思ったことを確認し合って、学習課題に組み込んでいきたい。その課題を深め合うために、ペア対話や班での話し合いの時間を確保する。新学習指導要領に示されている言語活動の充実に向けては、見学や調べ学習で習得した基礎知識を活用して、学習課題について考えを深め、探求させていくようにする。

前時までに、兼山の開発は土佐の国全体に及んだこと、新田開発のみに止まらず港湾の修築など多方面にわたること、またその過程で庶民に対する厳しい政策があったことなどを学習した。それらをふまえた上で、本時では兼山の行ったことに対して自分なりの評価をさせたい。

単元の目標

地域の人々の生活について、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について調べ、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができるようにする。

地域の開発によって地域の様子が変わり、人々の生活も向上してきたことを理解する。

学習指導計画・評価計画（全19時間、総合的な学習6時間）

内の数字...時間数

学習活動

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

< >内...評価方法

観察・資料活用

知識・理解

・子どもの予想

	目 標	学習の流れ（学習活動と児童の反応）	評価規準・支援（ ）
課題をつかむ・予想する	航空写真を見て、春野に水田が多いことに気づき、用水路について調べようとする意欲を持つ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高知市でお米が多く取れるのはどこだろう。</div> 春野に水田が多いことに気づき、春野の土地利用に目を向けていく。 ・用水路はいつできたのか。誰が作ったのか。	春野の土地利用の様子に目を向け、用水路について調べようとする意欲を持つ。 <発表>
	目的をもって、見学に臨むことができるように準備をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見学の準備をしよう。</div> 今までの学習でわからないことを整理し、知りたいことや、見たい点を書く。疑問については、予想も書く。	見学の準備をすることができる。 <見学カード>

調べる・追究する	(総合)	安全に気を付け、メモをしながら、見学をする。 広さや大きさを体感する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見学をして、調べよう。</div> 見学コース 高知市春野町郷土資料館 弘岡井筋 新川の落とし 八田堰	メモをしながら、見学をすることができる。 <見学カード>
		個々の見学のまとめをし、今後の学習の課題を作っていく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学習課題を作ろう。</div> 見学をして、わかったことや疑問に思ったことを発表し合う。 ・機械のない時代に大きな工事をして、用水路を作るのは大変なことだと思いました。 出された疑問を分類していき、課題作りをする。 ・堰や用水路はどうやって作ったのか。 ・働いた人の苦勞は。	友達の感想を聞き、かかわりを持ちながら課題づくりに参加することができる。 <発表・ノート>

指導の実際

【第1・2時】学習課題をつかむ

前单元「けんこうなくらし 水道」の中で、「水と米作りのかかわり」について触れたことを受けて、高知市内でお米がたくさん作られている地域を調べた。市内の航空写真から水田の多いところを見つけ、「高知市の米の生産量」のグラフを利用して、春野での米の生産量が多いことに気付くことができた。そこで春野へ見学に行き、その理由を調べてくることにした。

【第3時】予想を立て、調べる計画を立てる

「用水路ができる前」と「用水路ができた後」の資料（高知のくらし）を比較することで、前と後では水田の広がりや違うことに気付くことができた。このことから、用水路は米作りに大切な役割をしているのだろうと予想することで、見学の計画を立てた。

見学のときに、気を付けて聞いてくること

- ・用水路は誰がいつごろ造ったのかな。
- ・用水路を造るのにどんな苦勞があったのかな。
- ・お米の取れる量はどのくらい増えたのかな。
- ・水田が増えて人々の暮らしは変わったのかな。

【第4・5・6時】調べて確かめる（見学）

春野郷土資料館で学芸員の方の話を聞いた。ここで、多くの子どもは「野中兼山」という名前を初めて聞き、用水路が江戸時代の初頭にできたものだということを知った。その後、学芸員の方に解説してもらいながら、弘岡井筋、新川の落とし、行当の切り抜き、八田堰の順に見学した。

【第7時】見学したことをまとめる

見学してわかったことをワークシートにまとめたことで、用水路だけではなく堰が重要であることにも気付いた。まとめたことから、新たな疑問として、堰を作った方法などにも目を向け始めた。

第5学年実践事例2 「くらしを支える情報」からの抜粋

単元名 くらしを支える情報

単元について

・自ら考え、学びを深め合う授業をめざして

本単元の7時間目では緊急地震速報について取り上げる。まず、緊急地震速報がなかった昔と比較し、実際どの程度役立っているのか伝え合う。その後、緊急地震速報をよりよく活用するにはどうすればよいか考える。自分の考えは、根拠を基にワークシートに記述させる。話し合い活動では、子どもたちが出した理由や根拠を基に、これまでの学習を活用させながら多面的な見方、考え方を考えさせるように支援したい。情報があるから大丈夫と思うのではなく、上手に利用することが大切であり、なんとしても生き延びる方法を考えるきっかけにしたい。8時間目では、東日本大震災で被災した名取市の情報利用の資料を見て、名取市では防災情報を活用できていない人が50%もいることに気付かせる。防災情報を有効な情報として役立てるためには、緊急地震速報機器がどこにあるといいのか、また防災情報のよりよい入手手段を考える。昭和南海地震の体験者の話と東日本大震災の記録映像から、地震に対する危機感や命の大切さを感じ取らせたい。その際、双方向性を重視し、周りの人々と連携を取りながら避難することの大切さにも気付かせたい。本時では、情報化社会の光と影に目を向ける。東日本大震災に関する2種類のメール（エリアメール・チェーンメール）から、情報の受信者としてメールをどのように判断するかを考えさせる。

単元の目標

放送、新聞などの情報産業が様々な情報を提供し、自分たちの多くがそれらを多方面で利用していることについて、調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを考えることができるようにする。

情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている防災などの事例について資料を有効に活用したり、インターネットで情報を収集したりして調べ、それらの働きが、人々の生活を向上させるために利用され、自分たちの生活にも様々な影響を及ぼしていることについて、とらえることができるようにする。

情報化した社会において、情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を身に付けるようにする。

学習指導計画・評価計画（全12時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価方法 観察・資料活用 知識・理解 ・児童の予想

	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価規準・支援（ ）
課題をつかむ・予想する	自分たちの生活は、様々な方法で情報を手に入れ、役立っていることを理解することができる。	私たちは、どこからどんな情報を手に入れているのだろう。 様々な情報源を出し合い、自分たちの生活が様々な情報に支えられていることを知る。 ・高知県は台風や大雨が多いので台風情報や地震の情報を見ている。	自分たちが得ている情報や情報手段について考えることができる。 <ワークシート>

		情報伝達手段の特性を考慮しながらそれぞれの長所や短所を考え、学習課題を作ることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メディアのよい点、問題点を探ろう。</div> <p>様々な情報伝達手段の長所・短所を考え、学習問題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビは、ニュース速報や中継などで大事な情報を速くすることができる。 ・地震の時は、緊急地震速報が流れる。 ・携帯にも災害用伝言板がある。 ・情報で命が守られている。 	生活経験の中から情報伝達手段の長所や短所を考えることができる。 <ワークシート>
調べる・追究する		災害情報ネットワークについて課題別に調べ、伝え合うことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">災害から身を守るためのネットワークは、どのように活用されているのだろうか。</div> <p>課題別に調べたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報の仕組みについて伝える。 ・過去の水害状況や情報網について伝える。 ・子ども安全連絡網について伝える。 	緊急地震速報の仕組みを知る。 <発表・ノート>

指導の実際

【第1・2時】学習問題をつかむ・課題を考える

導入として、まず自分たちの身の回りの生活を見つめることから始めた。自分たちが様々な情報に触れ、また活用しながら生活をしていることに気付かせるために地域の看板やポスターの図を資料として提示した。その中からたくさんの情報源を子どもたちに見つけさせ、どのようなよさや問題点があるのかを考えさせた。「地震の時にテレビで緊急速報が流れる。」「携帯電話に防犯機能がある。」「看板で交通情報が分かる。」など、自分たちの生活が情報によって守られていることに気付いた。特に子どもたちは自分の学校にある看板に着目していた。昭和小の地域は海拔ゼロメートル地帯であるため大きな地震の際には必ず津波が来ると言われている。「地震が起きる時のネットワークはどのようになっているのか。」という疑問が出され、今後授業で考えたい学習問題を大きく3つに絞り、各々が調べる学習に進んでいった。

【第3・4・5・6時】予想する・調べる・情報をまとめる

子どもから出された災害情報ネットワークについて、課題を次の3点に絞って調べ学習を行った。

・緊急地震速報の仕組み ・高知県の過去の震災関係 ・安全連絡網などのネットワーク

また、実際に体験している人から話を聞きたいという意見が出され、調べ学習後には地域の昭和南海地震の体験者の方や気象台で働いている方から話を実際に聞いた。調べた情報を伝え合う中で、災害情報のネットワークの仕組みについて詳しく知ることができた。子どもたちは地震体験の話から、昔は情報を得る仕組みが十分でなかったことにも気付き、比較することができた。調べたことは、ノートにまとめたり新聞を作ったりしながら表現させた。その際は、課題についての予想を立て、調べた結果と予想を比較しながら考えを書くなどの手立てを行った。

第6学年実践事例 「新しい時代の幕開け ～土佐の先人 坂本龍馬～」 からの抜粋

単元名 新しい時代の幕開け ～土佐の先人 坂本龍馬～

単元について

・自ら学びを深め合う授業をめざして

本校の研究テーマである「自ら学ぶ子の育成」～自ら考え、学びを深め合う授業づくり～に向け、5年生までに考えを持つ、書く、伝える、さらに考えを深めることをサイクルとして友達との話し合いの中で考えを深め合う授業づくりに取り組んできた。授業においては、問題解決的な学習（つかむ・見つける 調べる・考える まとめる・広げる）を取り入れ、児童たちの疑問から課題設定をし、教科書、資料集、見学、個人で集めた資料など様々な情報から、課題解決ができるように取り組んできた。そして、6年生ではそれを受けて目指す児童像を「資料や社会事象の中から関心や疑問を持ち、自ら課題を設定できる子」「課題に対して、自分の意見や考えを持てる子」「課題解決に向けて、適切な手段で調べることができる子」「友達とのかかわりの中で自分の考えを深め、新たな気付きや課題を持てる子」とした。その児童像に迫るための具体的な支援としては、以下の3点「児童の思いから課題を設定し、課題意識を高める。」「自分の考えの根拠となるものを明確に示しながら過去と今をつなげた歴史学習を進める。」「児童の思いや考えを大切にするために座席表を活用する。」を重点項目とした。そして、本単元では、特に「課題解決に対して、自分の意見や考えを持てる子」「友達とのかかわりの中で自分の考えを深め、新たな気付きや課題を持てる子」を育てたいと考えた。

本時の指導では、龍馬が1867年6月に藩船夕顔の中で作った「船中八策」を取り上げる。船中八策は倒幕後の新しい日本の体制を8項目に龍馬がまとめたものである。龍馬が生きてきた33年間の考えや思いが集約されており、これが明治政府の五か条の御誓文へとつながっていく。そこで本時は、

単元の目標

幕末から明治維新にかけての歴史的事象や背景を知り、新しい時代をつくるために活躍した先人にたちの活躍と願いについて関心を持ち、意欲的に調べる。

明治政府ができ、西洋の文化を取り入れながら国の仕組みを整えていったことを調べ、産業の発展や憲法の制定などの近代化を進めていった経緯や目的を理解する。

学習指導計画・評価計画（全11時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価の方法 観察・資料活用・表現 知識・理解 ・子どもの予想

時	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価・方法
課題をつかむ・予想する	日本に黒船が来航したことにより、鎖国が終わり欧米諸国との交易が始まったことをつかむ	<p>あなたは開国に賛成？それとも反対？</p> <p>黒船来航の資料を読み取り、黒船によって日本が影響を受けた内容をつかむ。</p> <p><賛成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎖国が終わり、様々な情報を入手することができたから。 ・身分制度がなくなるきっかけになったから。 <p><反対></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国をしても日本は不平等な条約を押し付けられて外国とは対等ではなかったから。 	黒船来航の絵図から当時の人々の気持ちを考えることができる。<ワークシート> 黒船来航がきっかけで日本が開国し不平等条約を結んだことを知るることができる。<ワークシート>

	黒船の来航や幕府の力の弱まりなど等幕末の日本の様子について資料を活用しながらつかむことができる。	<p>約260年間も続いた江戸幕府は、なぜ滅んだのだろうか。</p> <p>江戸時代の学習を振り返り、幕末の動きをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船が突然現れたことがきっかけかな。 ・龍馬はどうやって幕府を倒したのかな。 ・新しい政府はどんな政府なんだろう。 <p>新しい政府はどのようにつくられ、日本はどのように変わっていくのだろうか。</p>	<p>倒幕に至った理由を、資料を活用しながら考えることができる。〈ワークシート〉</p> <p>資料集、副読本などから江戸幕府が滅んだ理由を調べることができる。〈態度・ワークシート〉</p>
調べる・追究する	龍馬が薩長同盟を結ばせた理由や方法を探り、薩長同盟がその後の国策に影響を与えたことを理解する。	<p>龍馬はどのようにして薩長同盟を結ばせたのだろうか。</p> <p>当時大きな勢力を持っていた薩摩藩と長州藩を説得し、手を結ばせた背景を探り薩長同盟の持つ意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍馬はどうやって説得したのかな。 	<p>薩長同盟がどのように結ばれたのか知り、龍馬の果たした役割を考えることができる。〈ワークシート〉</p>

指導の実際

【第1・2時】学習問題をつかむ

導入は、幕末のペリー来航時の授業からはじめた。黒船を見た時の一般民衆の立場、龍馬の立場、幕府の立場をそれぞれ想像し、自分だったら開国に賛成か反対かを話し合った。

<p>開国に賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から進んだ技術を取り入れることができる。 ・このままでは外国からどんどん技術が遅れてしまっていて差が開いてしまう。 ・外国と貿易をすることで利益を得ることができる。 	<p>開国に反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国をしたら日本は技術などが遅れているから外国の言いなりになってしまうのではないか。 ・日本の文化が失われる。 ・平等な条約ならいいけど、不平等な条約は日本に不利になると思う。
--	--

まず児童は、黒船の来航や幕府の力の弱まりなど、幕末の日本の様子から江戸幕府がなぜ滅んだのかを調べた。そのうちに、倒幕運動に土佐藩が大きくかかわっていたことやそこに坂本龍馬の活躍があったことを知った。そこで、龍馬が日本を変えようとした理由やどのような方法で龍馬が幕府を倒したのかを調べていくことにした。龍馬のことを調べていくために『坂本龍馬を知っちゃう?』という副読本を使って学習を進めることにした。そして、坂本龍馬についてどんな一生を送りどんな人物だったのかを知るために、ゲストティーチャーに来ていただいた。さらに、児童から龍馬についてもっと詳しく知りたいという声があがり、「龍馬の生まれた町記念館」見学に行った。

【第3・4・5時】調べる・考える

龍馬が薩長同盟を結ばせた理由やその方法を調べた。その際には、龍馬が興した〈亀山社中〉が活躍したことも合わせて学習していった。龍馬は失敗してもあきらめずに薩摩と長州を説得していったことなど、龍馬の日本を変えたかったという強い思いを感じることができた。次時には、